

平成26年度行政評価委員会

平成23年度指摘事項への対応状況一覧  
(継続検討分)

平成23年度指摘事項への対応状況(継続検討分)

No	局	所管課	指摘対象団体	指摘事項	指摘の対象	指摘事項への対応状況(平成26年6月現在)	進捗状況	(参考) 指摘事項への対応状況(平成25年6月現在)
1	観光文化局	市民文化課	公財)札幌市芸術文化財団	実施事業等の評価に当たっては、事業参加者数や市民満足度等のみならず、数値化した複数の指標を用いて、芸術文化の振興の取組の達成度を多角的に示す努力をし、その結果を事業改善に結び付けること。	団体	<p>ワークショップやセミナー型の事業、地域連携で行う参加型事業などにおける、芸術系学部を持つ大学の学生や市民ボランティアによる運営協力や、当財団が管理運営を行っている施設以外の場所(学校、福祉施設、公園等)で事業を行う、いわゆるアウトリーチについて、市民参画のひとつの指標として件数及び参加人数をカウントした。</p> <p>また、施設運営協議会やアンケートなどのセルフモニタリングの観点では、実行委員会形式で実施するサッポロ・シティ・ジャズで、車いす席の設置を希望する意見を受け、車椅子等の障がいのある方に配慮し、座席レイアウトや設備を工夫した「ユニバーサルジャズ」を平成26年度から実施するなどの事業改善を行った。</p> <p>加えて、芸術の森では外部有識者からなる「100万人委員会」を組織し、委員からの多角的な評価に基づき、既存の枠組みに捉われず、様々な切り口で集客を試みるべきという意見を受け、野外美術館でのバードウォッチングや、屋上緑化による環境負荷低減と栽培した野菜のレストランへの提供、野外美術館におけるワークショップなど、新規顧客層の開拓につながる試みを行い、事業の改善に努めている。</p>	B	現在、地域連携や産学連携推進の観点から、事業の企画や実施過程における市民ボランティアや学生等の参画を拡充する方向で検討を始めており、これらの市民参画の度合いを示す指標の設定、および札幌市の指定管理制度において強化されることとなったセルフモニタリングの活用によって芸術文化の振興の取組の達成度を多角的に示せないか検討を行う。